

報道関係各位  
Press Release



2026年2月25日  
コグニティ株式会社

## 【参加報告】AI時代のグロースは“設計”で生まれる： 人とAIの役割分担が見えてきた

— Startup Career Fair 2026 パネルディスカッションで明確になった  
「AIは作業を代替し、人は選択と責任を担う」 —

知識表現AIを用い、会話・文章情報から組織課題を可視化するコグニティ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役：河野 理愛、以下「コグニティ」）は、2026年2月21日に Tokyo Innovation Base（有楽町）で開催された「Startup Career Fair 2026」に出展し、代表の河野がスタートアップピッチおよびトークセッション（パネルディスカッション）に登壇しました。



\*写真：Startup Career Fair 2026のトークセッション開始前

以下では、会場で得られた反響と、パネルで議論された「AI時代に、人が担うグロースの役割」についての要点を報告します。特に、作業の自動化が進むほど成長の差は「運用を設計できるか（再現性・標準化・信頼）」に移る、という論点を中心に整理しました。

### ■ イベント参加の概要（ブース出展）

100社を超えるスタートアップが集結した会場では、来場者が目的別に各ブースを回遊し、短時間で濃い質疑応答を行う光景が随所で見られました。来場者同士・出展者同士の交

流も活発で、ブース訪問や立ち話での紹介が連鎖し、会場全体で「会話」が起点となって新しい接点が生まれる場となっていました。



\*写真：会場の様子

コグニティのブースにも多数の来場者・出展者が立ち寄り、働き方の柔軟性（副業・インターン等の参加のしやすさ、フレキシブルワーク）に加え、技術とサービスにも強い関心を持っていただきました。独自の知識表現AIを実用化したコア技術「CogStructure」および提供するサービス「COG-EVIDENCE」「COG-TRACKING」が提供する“人と組織の分析”と“課題改善施策の抽出”に対して、来場者・出展者を含め当日ブースでお話した方々からは一様に、会話や文章（テキスト）の解析からそこまで踏み込めるのかという強い驚きの声が寄せられました。技術の詳細を知らなくても「すごい」と直感的に受け止められている点が、印象的でした。



\*写真：コグニティのブース

### ■ トークセッション報告：「AI時代に、人が担うグロースの役割とは」

トークセッションでは、三井住友海上キャピタルの藤田氏がモデレーターを務め、コグニティ代表の河野、イノベティア代表の中畑氏、Urth代表・CEOの田中氏が登壇し、次の3テーマで議論が行われました。ここでは、AIが作業を代替するほど、グロースの差は「運用を設計できるか（再現性・標準化・信頼）」に移る、という認識が共有されました。

#### \*テーマ1：AIが代替するもの／しないもの（境界線）

議論の核心は「業務を作業と判断に分解すると境界線が明確になる」という整理でした。入力・加工・資料生成などの反復性が高い作業は代替されやすい一方で、最終的な意思決定

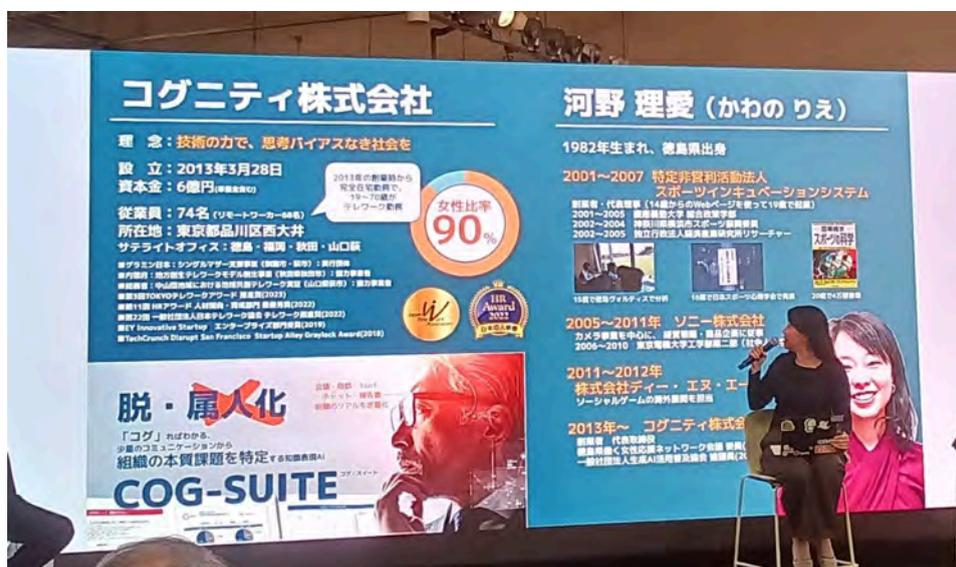
や責任の所在、未知領域での創造は人が担う領域として残る、という見立てが共有されました。河野は、コミュニケーションを要素分解・構造化して自動化プロセスを構築してきた実例を踏まえ、「置き換えられない仕事を守る」よりも「置き換えた後に何を設計するか」が重要である、という論点を提示しました。

### \*テーマ2：人が担うグロースの役割＝オペレーション設計

AI活用はツールを入れることでは完結せず、再現性を持つ運用構造を設計できるかが成否を分ける、という方向で議論が収束しました。再現性のあるプロセス設計、品質の標準化、スイッチングコストの構築、信頼の蓄積といった観点が整理され、グロースは「オペレーション設計」によって生まれる、という認識が共有されました。

### \*テーマ3：スタートアップでの「AI×人」最前線（実装のリアル）

導入初期に起こりがちなツール乱立、セキュリティ制約、社内理解の不足といった現実的課題が共有されました。その上で、小規模検証から始め、内部統制をクリアしながら全社展開へ進める、という現実解が議論されました。河野は、AIは意思決定を支援し得る一方で、最後に残るのは“選択と責任”であり、決めるのは人である、という主旨を述べました。



\*写真：トークセッションに登壇

## ■ コグニティの示唆：「設計できる組織」がAI時代の競争力になる

本セッション全体を通じて浮かび上がったのは、AIが作業を代替し得る時代において、成長を生むのは“AIの導入”ではなく“運用の設計”である、という点です。ここでいう設計とは、業務プロセスだけでなく、意思決定、責任配置、そして人が介在すべき判断領域を明確化することを含みます。

コグニティは、会話・文章などの定性データを独自の構造化技術により「改善に使える指標」と「行動に落ちる示唆」に変換し、改善の優先順位と打ち手を提示する分析サービスを提供しています。

今後も、現場で起きているAI活用の実装課題を“会話と意思決定の構造”として捉え直し、組織の再現性設計と成長の仕組み化に貢献してまいります。

## ■ イベント概要

- ・ イベント名：Startup Career Fair 2026
- ・ 主催：東京都（Global Innovation Strategy 2.0の一環）
- ・ 開催日：2026年2月21日

- ・会場：Tokyo Innovation Base（有楽町）
- ・公式サイト：<https://startupcareer2026.com/>
- ・トークセッション（登壇ページ）：<https://startupcareer2026.com/2f05-contents>  
登壇者：河野 理愛（コグニティ株式会社 代表取締役）・中畑 貴耀（株式会社イノベイティア 代表取締役）・田中 大貴（株式会社Urth代表取締役CEO）・<モデレーター>藤田 健司（三井住友海上キャピタル株式会社 投資開発パートナー）



\* 図：Startup Career Fair 2026のバナー

# イベント内容は2026年2月21日時点の情報に基づきます。

# 本リリースに記載の会社名・製品名は各社の商標または登録商標です。

## ■ トライアルのご案内：Baseline Review機能

コグニティは、会話・文章などの定性データを、独自の構造化技術により「改善に使える指標」と「行動に落ちる示唆」に変換する分析サービスを提供しています。商談・会議・社内共有・研修・顧客対応・IRなど、目的に応じてコミュニケーションの“伝わり方”と“成果につながる要因”を可視化し、改善の優先順位と打ち手を提示します。

その入口として、短期間で現状の課題と改善の方向性を把握できる「Baseline Review（お試し）」を5万円（税別）で2026年1月27日にリリースいたしました。個人・組織の力量を確かめるため、パフォーマンスが良いトーク/悪いトークの違い（構成・論点の置き方・説得の流れ等）や最終版の再レビュー（Before/After比較）として、録画・音声・書類等を2本ご提出いただくことで、分析結果とブリーフィング1時間でフィードバックします。（個人利用の場合は、ブリーフィングに代わりメールもしくはオンラインセミナーにて実施）



**組織判断は、  
感覚で決めない。**

Baseline Review提供開始  
2件までの個別検定+意思決定ブリーフィング

会議・商談・1on1・チャット・報告書  
組織のリアルを定量化、要因抽出から成果検証まで。

月30社<sup>限定</sup>  
初回5万円<sup>(税別)</sup>

申込ページ：<https://cognitee.com/baseline-review-cog-evidence>

#### 【コグニティ株式会社 会社概要】

- 社名：コグニティ株式会社
- パーパス：技術の力で、思考バイアスなき社会を。
- 事業内容：定性情報の定量化技術を使った組織分析サービス
- 本社：〒140-0015 東京都品川区西大井一丁目1番2-208号
- 設立：2013年3月28日
- Web：<https://cognitee.com/>
- 資本金：6億円（準備金含む）
- 従業員：71名（リモートワーカー含む）
- 代表者：代表取締役 河野 理愛
- 受賞歴他：
  - EY Innovative Startup エンタープライズ部門受賞(2019)
  - 第11回 HRアワード 人材開発・育成部門 最優秀賞(2022)
  - 第22回 一般社団法人日本テレワーク協会 テレワーク推進賞 優秀賞受賞(2022)
  - 第3回TOKYOテレワークアワード 推進賞(2023)
  - 一般社団法人生成AI活用普及協会協議員(2023～)

本件に関するお問合せ  
コグニティ株式会社 広報担当：奥井  
Email: okuinagisa@cognitee.com TEL: 03-4212-8445